# 新名誉会員の紹介

植　村　甲午郎 氏

明治27年３月12日生
現住所　東京都渋谷区千駄ケ谷３丁目３番地30号
本籍地　東京都港区赤坂８丁目４番地

植村甲午郎氏は，昨年開かれたオペレーションズ・リサーチ合同国際会議（第７回国際ＯＲ会議と経営科学国際学会第22回大会）の後援会長として，同会議の成功に重要な役割を果されました．理事会は同氏の功績をたたえて，名誉会員に推薦することをきめ，去る４月27日の総会にはかったところ，満場一致で可決されましたのでここにそのご報告をかね，同氏に対して心から感謝の意を表したいと思います．

略　　歴

大正７年　東京帝国大学法科大学　政治科卒業
大正７年　農商務省属
昭和12年　企画院次長(同15年辞任)
昭和16年　石炭統制会理事長(同21年辞任)
昭和27年　日本工業倶楽部理事，同45年専務理事，同50年理事長
昭和27年　経済団体連合会副会長，同43年会長，同49年名誉会長
昭和29年　株式会社ニッポン放送社長，同36年会長，同49年名誉会長
昭和32年　株式会社フジテレビジョン会長，同39年常任相談役
昭和38年　日本航空株式会社会長，同44年相談役
昭和41年　札幌オリンピック冬季大会組織委員会会長
昭和42年　通商産業省　産業構造審議会会長（同49年任期満了）
昭和42年　日本経済調査協議会代表理事
昭和49年　運輸省航空審議会会長
昭和50年　ボーイスカウト日本連盟総裁
昭和50年　社会福祉法人恩賜財団母子愛育会会長
昭和51年３月　財団法人　日本情報処理開発協会会長
昭和51年３月　(特)日本赤十字社　副社長

賞　　罰

昭和15年４月29日　勲二等旭日重光章
昭和15年９月11日　正四位
昭和39年11月25日　交通文化賞
昭和40年４月29日　勲一等瑞宝章
昭和47年４月29日　勲一等旭日大授章

# 第４回日本OR学会文献賞

**昭和50年度の文献賞は，表彰委員会の推薦により茨城大学工学部助教授森雅夫氏の論文**
**Some bounds for queues, JORSJ, vol. 18, No. 3-4, pp. 152-181**
**に授与することを理事会において決定，同氏は４月27日開催の昭和51年度定期総会において，表彰されました．**

**以下選考理由などについて説明いたします．**

## 選　考　理　由

〔**理論的新しさ**〕 待ち行列の理論における論文には，大別して２つの型があるといえよう．１つは個々のモデルについて具体的な結果（たとえば，待ち時間や待ち行列の長さの分布や特性値もしくは母関数など）を求めようとしたものであり，他の１つは，統一的理論を指向するものである．

ＯＲとしての待ち行列論の実用性を高める理論的方向には，一見前者のほうが向いているようにみえるが，それらの結果が複雑で，容易に数値のえられない場合が多いため，かえって実用性に乏しい．それに反し後者の方向でのよい結果は理論のみとおしをよくするので，実用に際してのよいガイドになりうる．この意味で一般論の


© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

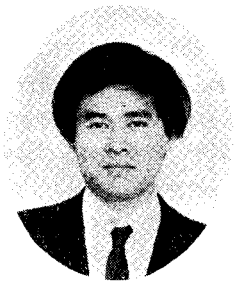
研究には，ORの分野で大いに奨励されるべき性格のものが多々含まれていると思う．

この論文もこのような意図で書かれており，まず $GI/G/k$ という，ごく一般的な場合について，仮り待ち時間の充すべき不等式を導いている．そして，これを利用して，$k=1$ のときの平均待ち時間についての従来の不等式を改良し，さらに分散に関する不等式を導く．

〔**将来への発展性**〕 上の結果を導くにあたって，著者は $GI/G/k$ モデルと $G/G/1$ モデルとの待ち時間についての類似性を利用したが，この事実は異なった待ち行列系の間の関連をみるのに役立ちそうである．この方向が進めば，待ち行列理論のみとおしは，かなりよくなるであろう．

〔**現実の問題への応用**〕 ここで著者のえた不等式は上，下から押さえるものであるが，その差はかなり少なく，平均待ち行列の長さでいって1人以下という程度となっており，これはポラチェック-ヒンチンの公式を $GI/G/k$ の場合にも流用することの妥当性を示している．このことは実用上大いに役立つことで，計算の可能な $M/M/k$ の場合の値さえ知れば（これは数表や図表になっている），一般の場合の値もおおよそわかることを意味している．

## 森　雅夫氏略歴



昭和17年8月17日生
昭和40年3月　東京工業大学　理工学部　応用物理学科卒
昭和42年3月　　同　　大学院　理工学研究科修士課程終了（応用物理学専攻）
昭和42年4月　防衛大学校　理工学研究科助手
昭和45年7月　東京工業大学　工学部経営工学科助手
昭和50年4月　茨城大学　工学部情報工学科助教授　現在に至る．

## 森さんのプロフィル

森さん，OR学会文献賞の受賞おめでとうございます．この6年間，後輩として身近かに接してきた者の1人として，心からお祝いをのべるとともに，森さんのプロフィルなりを書かせていただきます．

待ち行列の分野で，森さんが若手研究者のなかの第一人者であることは，だれしもがひとしく認めるところと思います．その点では，今回の文献賞も時間の問題であったといえるでしょう．学位は“Queuing Process with General Type Distribution”で受けられましたが，今回受賞の対象となった論文も，その学位論文の第1章をなすものでした．前回の受賞者高橋幸雄氏も，東工大森村研究室における彼の後輩にあたり，2人して東工大，さらに関東における若手OR研究者の総まとめ役といったところです．

どちらかというと彼の性格は，地味な裏方の仕事でも嫌な顔一つせず，快く引き受けるタイプだといえます．だから現在でも，当学会の編集委員を引き受けられ，原稿の依頼などに飛び回られている由です．

6年前に森さんは，東工大真壁研究室の発足とともに，その最初の助手として赴任されてきました．以来5年間，ご自分の研究を進められた他に，後輩である学生の研究面での悩みだけでなく，プライベートな面においてもよき相談相手であり，アドバイザーでありました．たとえば，森さんの知識の幅広さは研究室でも有名で，学生の間では「わからないことは森さんに聞いてごらん」というのが常でした．そのようなとき，ご自分の専門分野以外のことでも，快く相談に乗ってくださり，なんらかの解決のヒントを与えてくれたものでした．

また，趣味の点では，ご本人も認めている（？）ように“ヘタの横好き”で，テニス，野球，音楽鑑賞など，なんでも好んでやられます．とくに，食べ物に関してはうるさく，食道楽の一面もあります．いまでも，自ら包丁を握られたりもされます．このようなときでも，学生たちといっしょになって楽しむことに徹して，彼らの気持ちをガッチリ握っておられました．そのバイタリティーと人間的な誠実さ，面倒見のよさなどの点で，森さんという人間が単に俊秀な研究者であるだけでなく，先輩後輩を問わず，だれからも慕われる人間であることがうかがわれるかと思います．

昨年，茨城大学に栄転され，横須賀に奥様と3人のお子さんを残して，現在では日立で“やもめ暮し”をされています．それでも毎週末にはかならずご自宅に帰られるとのことですが，その温かなご家庭で森さんが鋭気を養ない，今後ともいっそうご活躍されることを期待しております．

（鈴木久敏 記）


© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．